

温泉湯の宅配で気分一新、 めざせユニークな

(旭 町)

つがわ
都 川 4

地域の概要

本集落は、旭町の中心よりやや南で、役場から南東へ約9km、主要地方道浜田八重可部線沿いに位置している。現在人口98人で、この10年間で、8世帯24人減少している。世帯数32戸のうち17戸が販売農家であり、約10haの農地に水稻栽培を中心に農業経営がなされている。

取り組み概要

① 経過

行政区の会合にて実行委員を15名選定して、本事業の推進に取り組んだ。従来より集落をあげて共同取り組み活動を積極的に取り組んでおり、また、1人暮らしの世帯などへの声かけ運動も展開している。それ以外に高齢者に喜んでもらえる取り組みはないかと協議した結果、町内や近隣の町に良質な温泉があり、その湯を高齢者宅へ運搬することができれば、喜んでくれるだろうということで取り組むこととした。

② 取り組みの状況

① 計画の立案

少子化、高齢化で今後地域活動に支障が多くなることが予想されるが、集落住民一丸となって住み良い地域づくりを目指すための1つの手段として、本事業を位置づけて計画立案に取り組んだ。

組織名を都川4行政区・温泉湯宅配クラブと命名し、役員を配置して運営する。近隣の温泉地で湯を購入し、毎月希望する家庭10戸以上に湯を宅配する。湯の購入は1タンク（400リットル）当たり200円、1戸当たりの宅配の湯量は約250リットルとする。1戸当たり125円ではあるが運営及び運送経費を含めて1戸当たり300円の徴収とする。

② 備品の購入

湯の宅配は、当日都合のつく10名の会員が2名1組で実施するため、最低5組の宅配器具が必要となる。

- | | |
|-------------------|----|
| ・ローリータンク 400リットル | 5ケ |
| ・水中ポンプ | 5ケ |
| ・ホース 経25ミリ 50メートル | 5ケ |
| ・備品収納庫 | 1基 |
| ・その他 | |

などの備品一式を本事業にて購入し、集落で維持管理する。



集落データ

| | | | |
|-------|-----|-------|--------|
| ●市町村名 | 旭町 | ●集落名 | 都川4 |
| ●戸数 | 35戸 | ●高齢化率 | 35% |
| ●ジャンル | 福祉 | ●策定年度 | 平成12年度 |

③ 湯の宅配

高齢者宅へ温泉湯の宅配予定日カレンダーを各戸に配布し、希望者を確認する。集落内の若者を中心として、15名でグループを結成し、都合のつくメンバーが交替で2人1組にて、毎月1回日曜日等の休日に希望者宅へ湯を運搬する。トラックについては、参加メンバーが提供し、1日当たり1,000円で借り上げをしている。集落内は生活道路が十分に整備されているために、ほとんどの家庭で庭先まで自動車による運搬が可能である。なお、冬季間については、雪や温泉湯の温度の低下のため休止している。

③ 成果

高齢者でなかなか温泉に行けない家庭においては、家庭で温泉を味わえることに大変喜んでもらえる。湯を宅配することでその家庭で会話ができ、あわせて、独居老人宅の声かけができ高齢家庭からは歓迎されている。

また、温泉湯を運搬する若者メンバーについても、毎月定期的に交流ができることにより、より団結力が強くなってきた。

全体的に、本事業を活用して集落内の交流が図られ、これを契機にして活性化につながっていくように思われる。

④ 課題

- ① 冬季間の湯の宅配
- ② 温泉湯の運搬メンバーの確保（宅配頻度または宅配戸数の増加）
- ③ 地元の旭温泉の湯の活用

今後のビジョン

この事業については、当面4年間の継続実施を目標としているが、グループの賛同があれば可能な限りその後についても継続したいと考えている。

また、購入した宅配用のタンクセット等は集落の備品として管理するものの、地域内の他の集落での利用の希望があれば、低料金にて貸し出しを可能とする。そのため自治会に協力依頼をして、都川地域全域でボランティアにより月に1回程度対応できる体制を考えたい。

集落代表者の声

都川4・温泉湯宅配クラブ会長 大賀 節造

この活動により、集落が一体となり高齢者宅への湯の宅配を通して、コミュニケーションを図ることができ、活気が出てきた。この喜びを1集落にとどまることが無く、地域全体への波及効果が期待できるように、他集落へも積極的に備品の貸し出しを考えている。

この事業は単に温泉湯の宅配活動を展開するだけではなく、集落内の中高年者が一体となって過疎化に対処すべく、有効的な方策を考えるための強固な組織づくりを目指そうとするものである。

問い合わせ先

旭町役場 総務課
☎0855-45-1431

“まめ”な加工“まめ”に交流、

(弥栄村)

かど た かみ かど た しも
門田上・門田下

地域の概要

本地域は、弥栄村の北東に位置し役場より3kmのところにある。平均面積102aと村内でも比較的経営規模は大きい。人口動態は高齢化率が示すとおり独居老人が多く若者の定住は少ない。

取り組み概要

1 経過

農事組合法人ビゴル門田の役員及び集落自治会の役員で、この門田集落の将来展望について話し合いの場を再三重ねてきた。その結果、農産物の付加価値を付けた販売、特に加工・食品の製造に力を入れて行くことが必要であり、地域振興を図るうえでも都市住民との交流を進めて行く必要があるということで加工施設及び交流施設の建設に取り組んだ。

2 取り組みの状況

① 農事組合法人の設立

昭和54年にほ場整備事業の導入と共に、農業生産組合を組織し機械の共同利用を行ってきたが、平成10年から農事組合法人設立へ取り組む話し合いを実施し、平成11年3月4日集落全員が組合員となる農事組合法人ビゴル門田を設立登記した。そして、同年12月には集落内全農地22haを利用権設定して特定農業法人に移行した。

② 交流センター門田の設置

農産物に付加価値を付け販売する目的で、農産加工施設及び都市住民との交流施設の場として交流センター門田を設置した。

③ 都市との交流事業

枝豆栽培を中心にして、都市との交流を図る目的で、枝豆のオーナー制度を実施し播種、除草、収穫の時期に集落の住民、都市からのオーナーを招いて共同作業、収穫祭等交流を図っている。



門田

集落データ

- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| ●市町村名 | 弥栄村 | ●集落名 | 門田上、門田下 |
| ●戸数 | 29戸 | ●高齢化率 | 48.7% |
| ●ジャンル | 産業、交流 | ●策定年度 | 平成12年度 |

④ 中山間地域直接支払い制度の導入

農事組合法人ビゴル門田を設立し、農地の利用集積を図り中山間地域直接支払い制度の導入により共同で草刈等の作業を行い農地の荒廃の防止に努めている。

③ 成果

農事組合法人ビゴル門田の設立により農作業の機械化、合理化又転作作物の集団化、農産物の加工等に取り組み共同作業をすることにより集落の一体化が生まれた。又都市住民との交流事業により集落の活性化が図られた。

農事組合法人ビゴル門田を特定農業法人に移行することによって農地の荒廃を招くことなく、より生産性の高い法人経営が期待できると共に、農業収入の増にも繋がった。

④ 課題

- ① 後継者及びオペレーターの確保
- ② 農業生産性の向上及び農産物の販売加工
- ③ 他集落及び他生産組合との連携、補完

今後のビジョン

農事組合法人ビゴル門田を門田集落の代表と位置づけ、集落全員でビゴル門田を支援し続ける事によって、ビゴル門田が益々発展し、より収益性の高い農業が確立する。そして、収益性の高い農業を確立させることにより、今まで以上の集落活性化を図りたい。

集落代表者の声

農業組合法人ビゴル門田代表 廣瀬 康友

農産物の加工場及び交流施設の建設については、県のがんばる鳥根農林総合事業や中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業により補助金を受け建設したものの、個人負担は予想以上に大きくなった。今後農事組合法人ビゴル門田を中心とし、ブロックローテーション方式による効率的栽培を行い、農業収入の増を図ることによって集落の発展につなげたい。

問い合わせ先

弥栄村役場 のびやか総務調整課
☎0855-48-2111

こんにゃくのように柔らかく、 こんにゃくを食べて、ピンピン

(弥栄村)

しも た の はら
下田野原

地域の概要

本地域は、弥栄村の南に位置し役場より13kmのところにある。人口動態は高齢化率が示すとおり、昭和35年の126人を最高に現在の10人となっており集落の維持が困難になりつつある。

取り組み概要

① 経過

手作りこんにゃくを作ることや、四季折々の自然の食材を活かした高齢者に優しい食事の試食会を実施してきたが、既存の集会所では、設備も不十分であり作業効率が悪いとため、流し台等を新たに設けるなどして効率よく利用できる集会所に改築した。

② 取り組みの状況

① ふれあい共同住宅の利用

高齢者が長年住み慣れた地域で生活を続けたいという意向を尊重していただき、地縁関係を保ちながら相互に助け合い、共同で生活できるモデル的な施設として、平成9年度に「ふれあい共同住宅」が建設された。その住宅に泊まりながら、試食会を実施したり手作りこんにゃくを作ったりしている。

② 試食会の実施

コミュニティーの活性化を図るため月1回の集会を実施している。その時に、健康に配慮した食生活を送るため、四季折々の自然の食材を利用した試食会を実施し、集落全員で健康管理に気を配っている。

③ 手作りこんにゃくづくり

昔ながらの味を受け継いだ美味しい手作りこんにゃくをつくり、それを商品化し、村内イベントで再生産が出来る価格を設定しそれを販売することによって、少しでも集落の活性化につながるよう努力している。

優しく、 コロリン

集落データ

- 市町村名 弥栄村
- 戸数 6戸
- ジャンル 産業、交流
- 集落名 下田野原
- 高齢化率 50.0%
- 策定年度 平成12年度

3 成果

屋外にテントを張るなどしてこんにゃく作りを行っていたが集会所を改築することができ、天候に左右されずに、効率よくいつでも手作りこんにゃくを作ることが出来るようになった。そして、試食会も実施できるようになり、集落内が今まで以上にまとまり活性化に繋がっている。

4 課題

- ① 昔ながら受け継いだ手作りこんにゃくの味を教える後継者がいない。
- ② 出来れば商品化を考えたいが、人手不足で実施できない。
- ③ 大量に作ろうとすると、こんにゃくの原材料であるこんにゃく玉が不足する。



今後のビジョン

ふれあい共同住宅を十分に活用しながら、昔ながらの無添加手作りこんにゃくをつくり、四季の食材の味を十分に活かした試食会も継続実施することにより、集落全員で十分な話し合いができ、いきいきとまとまりのある集落が結成される。それと同時に一日でも長く元気で生活し続け、下田野原のこんにゃくの味を何らかの形で後世に伝えたい。

集落代表者の声

下田野原自治会長 梅津 重見

集落所を改築することが出来、村内イベントに手作りこんにゃくを出品することが容易に出来るようになり、今まで以上にやる気が起きてきているし、月に一回の会合にも全員が進んで出席するようになり、集落の活性化が図られつつある。

問い合わせ先

弥栄村役場 のびやか総務調整課
☎0855-48-2111

ふれあい&花とロマンの里

—キラリと輝く!! 生き生きロマンの里づくり—

(三隅町)

み す み
三隅 1 区
み す み
三隅 2 区

地域の概要

三隅地区は、役場及び商店やJA、銀行等の金融機関、医療施設、つつじで有名な三隅公園などがあり三隅町の中心地に位置して4集落で成り立っている。

人口は、昭和30年には241世帯、926人であったが、今では182世帯、539人に減少している一方で、就業状況は第2次・第3次産業への就業がほとんどである。

近年、人間関係や連帯意識が薄れる傾向にあり、伝統文化の継承、地域づくりの推進等支障をきたしている状況である。

このような、状況下でメリットを生かし、地域に活力を呼び戻すために第2次「三隅地区地域づくり推進計画書」を策定して目標達成のために日夜実践活動に努力している。

取り組み概要

① 経過

平成6年12月に策定した「三隅地区コミュニティ推進事業計画（平成7年～平成11年）」でできなかった事業及び住民要望等をもとに、将来の目標達成のための事業の把握等を年代別の19名の委員で第2次計画書を策定した。

平成11年12月に策定した第2次「三隅地区地域づくり推進計画書（平成12年～16年）」の五つの基本方針を推進するため、役員会で十分検討をする中で三つの事業を選択した。

事業推進については、専門部を中心に事業計画を立案して、実践していくという役割分担を明確にしながら、二つの事業を終了した。残り一つの事業が残っているので担当部は勿論、役員・会員等の協力及び支援をいただきながら全事業を早期に完成させたい。

そして、継続する事業は独自の予算を確保しながら地域活性化を図ることにしている。

② 取り組みの状況

① 三隅商店街活性化夜市イベント&盆踊り大会

商店街がある程度集積しているが、大型店の進出で浜田・益田へ購買力が流出しており、商店街は衰退の一途をたどっている。

このため、購買力の向上と地域商店の魅力を引き出すことから、従来から実施している盆踊り大会をドッキングさせたイベントを開催することで地域交流の推進を図った。

- ・日 時 平成12年8月15日 午後6時～9時30分
- ・場 所 主要地方道三隅美都線山陰合銀前付近
- ・内 容 商店の開店（臨時出店 ヨーヨーつり、金魚すくい、氷、当てくじを含む）
スイカ割り大会 シルバーカラオケ大会 子ども縄跳び大会
豊投げ大会 盆踊り大会

② つつじの植栽

快適な住環境を造ることで、町の花になっている「つつじ」を国道9号線から見渡せる三隅川河川敷に570

づくり

集落データ

- 市町村名 三隅町 ●集落名 三隅自治振興会(三隅1区、三隅2区、三隅3区、三隅4区)
- 戸数 32、42、64、44戸 ●高齢化率 35、37、26、33%
- ジャンル 産業、交流、環境・景観 ●策定年度 平成12年度

本植栽した。

三隅公園の玄関口に植栽することによって、三隅町のPRはもちろん、地域の環境美化を図ることができた。今後も、植栽を重ねながら維持管理を行い、地域自慢の憩いの場を造りたい。

- ・日時 平成13年10月28日 午後7時～9時
- ・場所 三隅川河川敷
- ・内容 つつじの苗 570本植栽(植栽・施肥等については、住民の手による)

3 成果

ふるさと三隅の良さを再発見することから、帰省客の多い時期に各店舗の消費拡大、伝統文化の伝承等に取り組んだ結果、地域住民と町内外の人たちとの交流の輪が広がった。2年目は、単独の自治会予算で取り組み、継続する機運が高まりつつある。

また、つつじの植栽によって、つつじの町三隅町を町内外にアピールすることができたとともに、自分たちの住んでいる地域の景観の保全と地域住民の連帯意識の高揚が図れた。



4 課題

- ① 各店舗がイベントをキッカケに、継続性のある取り組みの充実・強化
- ② 植栽については、維持管理機能の充実・強化
- ③ 地域の特色ある憩いの場づくりの推進
- ④ 行政機関等の助成措置

今後のビジョン

地域計画書の中の二つの事業を今後さらに推進していくためには、こうした取り組みをキッカケに、地域独自の特色を出しながら、各店舗及び住民が連携して購買力が増すような取り組み、景観に配慮したまちづくりの推進を図るとともに継続性のある事業に発展させたい。

また、未実施のホテルが飛び交う憩いの場づくり事業についても担当部の積極的な事業展開及び役員・会員の支援・協力により事業推進を図り活性化に努めたい。

集落代表者の声

三隅自治振興会会長 清水 和男

住みよいまちづくり、地域づくりは、その地域に住んでいる私たち一人ひとりの住民が行うことはいままでもない。

しかし、過疎化、高齢化等の急激な進行は、あらゆるところで伝統文化・行事の伝承等に影響がでており、地域存続さえ危ぶまれているところである。そのような状況下の中で、地域の実情にあった、しかも住民の声を取り入れながら策定した第2次の地域計画書の中から三つの事業を選択して、事業に着手したところである。

この内二つの事業は、目的に沿って事業の達成ができ、さらに継続的に事業を行うことにしている。残る一つの事業は、自然の中でしか体験できない、ホテルの飛び交う地域の憩いの場づくり事業については、地域住民の協力を得ながら早急に進めたい。

いずれにしても、その事業のみの消化ではなく相乗効果が得られるよう今後も事業展開を重ねながら「住んで良かった」といえる地域づくりを目指したいと考えている。

問い合わせ先

三隅町役場 企画課
☎0855-32-2804

生活環境緑化美化、健康福祉の

—桜並木と日本海とパワープラントロード—

(三隅町)

す づ 須津1区

地域の概要

海岸部に在る密集集落、1本釣り漁業基地岡見港（漁業専業約40戸＝年々減少）。平成8年より漁業集落環境整備事業に着手、現在過疎化緩やか、少子高齢化急速、人口減少傾向。

取り組み概要

① 経過

集落内の団体部会（自治会、婦人会、老人会、漁業船頭会、子供会等）の長副会長参加。役場企画課の指導受け、打合せ検討会5回、13年1月10日県担当者プランの現地検分。1月13日先進地島根町チェリーロード視察研修（21名）。平成13年1月24日申請書提出。2月9日実行確認打合せ役員会。13年3月4日桜苗木植樹会開催、桜苗木植栽計画では大勢のボランティア集めに苦心、穴堀、前作業など多かった。しかし、みんな苦勞とは感じてない。夢を追っていて楽しかった。

③ 取り組みの状況

① 生活環境緑化美化

平成12年に町道西の谷須津線（全長2km）の改良完成。立派になったので、海岸部の地形環境も素晴らしい場所であり、桜か椿を植え緑化美化を計画中のとき「活性化緊急対策事業交付金」のプランを知り、桜苗木植栽計画に着手、平成13年3月4日、約250名のボランティアが集まり341本の桜苗木を植樹、全部に名札を付け記念品も配り記名植樹とした。中でも町立岡見中学校54年間の歴史を終える閉校行事と重なり、岡見中学生と先生、保護者も参加し閉校記念植樹となり意義深い桜植栽行事になった。

② ウォーキング健康づくり

「桜並木の青浦新道を歩こう」をキャッチフレーズに、13年5月26日開催。晴天の穏やかな日和りに恵まれて65名参加。往復4kmを2時間程で歩く、全員に参加賞配る。

③ 高齢者寄り合い所憩いの場づくり

地区中心部の海岸端にある石見神楽舞殿の「ひさし」を長く出して雨天晴天に備えた、ベンチ椅子も配置し休憩所をつくる＝人通り多い場所

④ ホームヘルパー、食生活改善推進員活動拠点づくり

テレビデオ（研修用）、たび、スパッツ（敬老会、老人施設慰問用の芸能道具25名分）、大漁旗を漁業者から無償提供受け芸能用ハッピー25着作成。座布団カバー30枚新調、なべ、食器、冷蔵庫、等は各家庭の不用品を貰い受けた。

拠点整備

集落データ

- 市町村名 三隅町
- 集落名 須津青浦地区自治会(須津1区、青浦、須津6区、5区、4区、3区、2区)
- 戸数 31、16、33、39、19、24、22戸
- 高齢化率 36、30、25、18、28、31、28%
- ジャンル 文化、福祉、環境・景観
- 策定年度 平成12年度

3 成果

14年3月23日、第2次桜植樹会実施。岡見小学校児童、保護者、先生、地元中学一年生等115名参加。桜苗木131本植樹。計472本となり桜植栽事業ほぼ完了した。

桜植栽は将来を夢見させてくれる。活性化効果大。桜が成長すれば「桜まつり」など催して地元海産物等の即売会、青浦新道桜並木ジョギング大会等々開いてPRしなければ。

「憩いの場神楽舞殿」は、暖かい日和りには訪れる常連が多く「海を見て、船を観て、人を見て、話をして」と賑わいで大好評。



4 課題

- ① 管理(名札の保存、気象現象への対応等)
- ② 資金(草刈り、肥料、労力等)

桜植栽事業に一次、二次合わせて概算95万円を要した。

将来、桜が成長すれば、一地域自治会にては資金面共に管理が難しくなる。(請う支援)

今後のビジョン

人が集まらなると地域活性化はできない。桜の花見時期にはいろいろイベントを催しPR。海岸の地形環境が素晴らしい桜並木なので、自然を大切にゴミ環境にも配慮して島根一番の名勝地になるように努力しなければ、地元海産物、特産物の即売会には特に尽力必要。

集落代表者の声

須津青浦地区自治会長 寺迫 修吾

平成12年に素晴らしい『青浦新道』が完成したので、桜を少し植えれば道路の美観がより良くなるのではないかとの思い付き程度の発想(当初100本予算20万円→最終472本概算95万円)から先進地視察となり、話し合い相談している内、欲が欲をよび構想が倍加して、これは『途轍もない大事業』であることを自覚しでしたが、反対なく計画実行できた。472本全部が記名植樹なので盛り上がりが大きく、植樹作業および穴堀等、ボランティアに参加した人員延べ420名余と関心が非常に高かった事で判る。特に閉校岡見中学校生の参加、岡見小学校児童および保護者の参加は意義大で主催した我々自治会でも大ヒットであったと感動している。

この上は、この環境を大切に大切に保護して『三隅の名勝地、いや島根一の景勝地』としてクローズ・アップできる日が早く来る事を願っている。(この中山間地域集落維持対策資金が、タイミングよくあったのでこれだけの纏まった事業が完成出来たと感謝している)

問い合わせ先

三隅町役場 企画課
☎0855-32-2804

“美濃”を活かす快適空間夢

創意工夫で築こう豊かな農村・きらめく緑の夢空間

(益田市)

しもじょうくろう なか くち もとごうかみ こうちかみ なかま
下城九郎・中の口・本郷上・河内上・中間
ささみだに いっちょうだ にしだに ありたしも はら きよみず
笹見谷・一丁田・西谷・有田下・原・清水

地域の概要

17集落がある美濃地区(旧美濃村)は、益田市の西部にあり市の中心から約17kmに位置し、山口県田万川町と接している。人口は10年前と比較して約100名減少しており、高齢化率も36%と高くなっている。また、少子化の進行により隣りの二条地区との小学校統廃合が整備計画に組み込まれている。

取り組み概要

1 経過

プラン策定にあたって、対象11集落個別の事業実施では美濃地区活性化にとって「死に金」となり、一過性の取り組みとなる恐れから対象外集落を含む地区全体の取り組みとして話し合いを重ねてきた。しかし、事業目的が十分理解されず権利主張や利便性のみの追求をする要求が突出したが、最終的には対象集落の意向を踏まえながら各事業の決定をした。この話し合いの成功の陰には、公民館長や地区連合自治会長の強力な後押しがあった。

2 取り組みの状況

① 農産物加工施設建設

美濃農産物加工センターの新築(木造平屋建て 50.88m²)

地区内の女性が積極的に農業経営・地域社会活動に参画し、いきいきと働ける環境整備を図るとともに、地域全体の能力育成や意識改革に取り組むための拠点として、加工センターを建設した。

加工品づくりは、女性グループ「あゆみ会」を中心として、コンニャク・さしみコンニャク・餅・漬物・大豆を原料としたお菓子づくりに取り組み、地区文化祭等の販売で759千円(12月末まで)の売上実績をあげている。

② 炭焼き窯建設

高齢者の持つ豊富な経験と能力は、地域社会の発展に好ましい影響を与える。また高齢者に対して適切な活動の場を開発・提供することは、活力ある農村社会を建設することに結びつく。このため、有数の木炭生産地であった美濃地区に「炭焼き窯」を復活させ、高齢者に軽労働の分担を通じて生産活動の一部を担うことによる生きがい対策、生産技術の伝承を図ることに取り組んだ。

1月から3月で木炭1,570kg、竹炭280kgの生産を行い、107千円の売上実績をあげている。

③ 田植え囃子用具購入・格納室建設

農村の快適性には「農村らしいのどかさ」が必要であるが、生活スタイルの変化・兼業化の進行とともに共通の話題が減少し、農村社会の機能・連携が弱体化しつつある。このため、美濃地区に伝承されている「田植え囃子」を連帯感の核として、保存会の存続・強化を図るため、田植え囃子用具の購入・補修や既存集会所に格納室増築(12m²)を行った。

④ 集会所建設・増築・周辺整備

快適な生活空間を築くためには、安全・安心の確保を図るとともに集落での話し合いに基づく意見統一、諸問題の解決策等を検討する場が必要となってくる。このため、集会所の新築・増築・周辺整備や防犯灯

プラン

集落データ

- 市町村名 益田市
- 集落名 下城九郎、中の口、本郷上、河内上、中間、笹見谷、一丁田、西谷、有田下、原、清水
- 戸数 17、5、8、14、7、4、6、3、9、7、5戸
- 高齢化率 57、50、41、56、40、44、46、75、37、36、53%
- ジャンル 文化、産業
- 策定年度 平成12年度

の設置等を行った。

- ・中の口集落——集会所建設（プレハブ 20m²）
- ・有田上自治会——集会所増改築（炊事場・玄関等 16m²）
- ・城九郎自治会——集会所増改築（集会室・押入等 16m²）
- ・河内上自治会——集会所周辺整備（倉庫整備・舗装・植栽）
- ・本郷上自治会——環境整備（防犯灯・ゴミ収集場整備）



3 成果

農産物加工センターの建設により、あゆみ会（22名）が中心となり平成13年11月から農産加工の取り組みを開始し、また以前より実施している大豆の共同栽培等も合わせ、地域農業の振興や地域全体の能力育成・意識改革に大きく貢献している。何より一つの目的に向かって女性たちがいきいきと働ける場や共通の話題が提供されたことが一番大きいと思う。

炭焼き窯建設については、対象集落だけでなく自治会の応援を得て取り組み、課題の販売先については森林組合等の協力を得るなど地区全体での体制をとってきた。豊かな山村文化を伝承し、高齢者の生きがいに向けての取り組みが始まったと感じる。

4 課題

- ① 地元大豆を使った加工品の開発
- ② 農繁期における加工への取り組み（人員確保）
- ③ 総合学習と地域農業（加工・炭焼きを含む）との連携

今後のビジョン

- ・大豆共同栽培のさらなる定着化や大豆を利用した加工品の開発、さらに餅・コンニャク以外の加工品の開発や販売に心がけ、5年後には販売額500万円を目指したい。また、経営の安定化を図るとともに将来的には法人化も検討していきたい。
- ・木炭や竹炭は環境重視の中で根強い重要があり、今後は販売拡大を目指すとともに、この施設を利用して若者や子供達に技術の伝承をすることによりふるさとを見直すきっかけをつくり、活力ある農村社会の建設に結びつけていきたい。

集落代表者の声

美濃公民館長 岡崎 稔

当事業の趣旨を念頭に地域全体の活性化につながることはできるのではないかと感じている。それぞれの施設が十分に利活用されている。

特に、メイン事業である農産物加工センター建設は郷土の産品を加工・販売することで、女性の物づくりへの意欲を引き出し市場開拓の成果も出始めている。炭焼き窯建設も原木は豊富にある地域であり、地域の産物として育て販路拡大に努めたいが、まだ一步を踏み出したばかりであり研究課題は山積している。

原材料の生産確保、品質、販路、経営、意志の統一、そして地区のオンリーワンの物品の開発、後継者の育成等が達成されることを願って応援していきたい。

問い合わせ先

益田市総務部 総合政策課
☎0856-31-0121 (代)